

スケッチかんさい

春日大社で神鹿の角切り

およそ340年も続く伝統の神鹿の角切りに誘われて、春日大社へ向かった。この春日野一帯に棲む雄鹿が発情期になると気が荒くなり、尖った角で人を死傷させないように、角を切ったのが始まり。行事は神官のお祓いからはじまり、20人ほど法被姿の勢子が赤旗を持ってトラック沿いに立つ。雄鹿3頭が放たれ、客席に歓声があがる。勢子の持つ縄が、走り回る鹿の角に向かって投げられる。正に西部劇のカーボーイか流鏑馬のようだ。やっと捕獲された鹿は籠に寝かされて、神官に水を飲まされると観念し、ノコギリで角は落とされた。しかし翌年春になると新しい角が生えてくる。頭の軽くなった神鹿は観衆に跳んで見せた。人と神と鹿の平和な交わりのひと時であった。

あつた ちかよし
熱田 親憲



奈良市春日野町(奈良公園・鹿苑)